



びっきー

第15号

【学校教育目標】

Chance! Challenge! Change!

～「チャンス」をつかみ「挑戦」!

自分をより高く「変革」!～

食欲の秋「いただきます」を（全校朝会より）

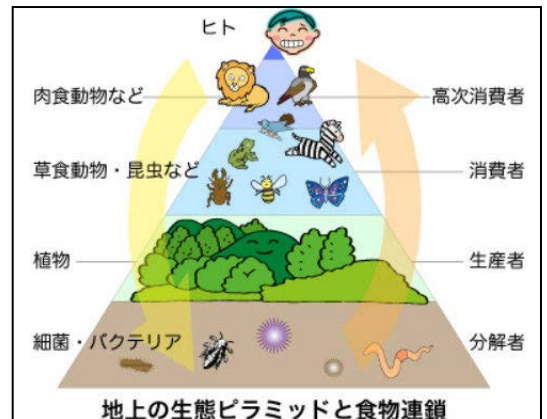
季節的にも過ごしやすく、夜も長くなりました。実りの秋、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋・・・というように、秋は、収穫の時期、物事に集中できる時期でもあります。今日は、食欲の秋にちなんだ話をしたいと思います。

山の一番高いところを山頂というように、最も高いところを「頂」、「いただき」といいます。食事のときに使っている「いただきます」には2つの意味が含まれています。

1つ目が、多くの生物に対する命への感謝です。このことは小学生の時から言われて聞いてきたと多いと思いますが、私たち人間は多くの生物の命と引き換えに自分の命を生きながらえています。食事の時に、「いただきます」という言葉は、犠牲になった多くの命に改めて感謝を捧げるために、使っています。

2つ目が、生物界は、食物連鎖といわれるように、食べる・食べられるという関係によってつながりがあります。しかし、人間は何でも食べるけど、他の生物に食べられたりすることによって生物界に何の役立つことはありません。そういった意味では、人間は食物連鎖の頂点、すなわち「いただき」にいるといえます。しかし、動物は、自分や家族が生きるためだけに餌を食べます。本能として必要以上に餌を捕ることはありません。しかし人間は、料理という方法を知り、あらゆる生物を食べるようになりました。問題は、そのことによって、多くの動植物が命を無駄に奪われることになってしまっているのではないかということです。私たちは、食物連鎖の頂点にいることを自覚し、地球上の多くの生物の命を無駄にしないようにする心を忘れてはならないと思います。

今日から、今まで以上に地球上の生物への感謝と敬意を持って、「いただきます」と言ってください。



地上の生態ピラミッドと食物連鎖
画像(<http://kawasuguru.blog.jp/archives/29841728.html>より)

2年生学年集會に江北小石隈先生の応援メッセージ

10月24日(水)学年朝会で、小学校6年時の担任であった石隈先生に来ていただき、中学校生活が折り返しとなった2年生に向けて話しをしていただきました。「これまでの1年半より今からの1年半が大切で、生徒会、部活動、学校をどう引っ張っていくか。そのことが高校や社会に出てからそれらが役に立つはずで。「時間に流される」「心が流される」など君たちが苦手としていることもあります。みなさんにはパワーや明るさがあります。そのパワーを生かしてほしい。失敗してもいいです。そのパワーを使わなかったらもったいない。時間は限られている。これからの活躍に期待している。・・・」などやる気が出る話、君たちのこと応援していることなど力強い話をさせていただきました。一小一中のよさが生かされたよい取組だと感じました。



杵島地区英語暗唱大会

10月30日(火)佐賀県中学校英語暗唱大会の地区予選が大町町総合福祉保健センターで開催されました。本校から下表の生徒が出場しました。しっかり暗唱し、表現に気持ちを込め、工夫した立派な発表でした。

1年	江口 隼人、池田 茉桜	太田 梨心、武富 麻衣
2年	相島 千咲	浪瀬 志恩
3年	吉岡 碧海	田中 麻妃



江北町海外こども交流団 相手校とインターネットで交流

11月7日(水)町主催「江北町海外子ども交流団」12名が相手校ルーサンカレッジ校の生徒とインターネット回線を利用して交流しました。自己紹介や江北中学校のこと、江北町のことなど英語で紹介しました。相手校の生徒からは日本語で紹介があったり、お互いに質問し合ったりして交流を深めました。11月23日(金)から4泊7日で、3日間相手校で授業一緒に受けたり、ホームステイしたりしてさらに交流を深めます。来年度は江北町がルーサンカレッジ校の生徒を受け入れることになります。



命の尊さを学ぶ教室

11月7日(水)県警主催で「命の尊さを学ぶ教室」が開催されました。講師は菊池市出身の高濱伸一氏(元小学校教員)で、「子どもたちのいのちにありがとう」という演題で講演をしていただきました。高濱さんのご長男の怜志(さとし)さんは負けず嫌いで、父親と同じ熊本大学教育学部にかなり努力されて入学され、将来は青年海外協力隊として、海外で教師をしたいという夢を持ちがんばっておられたのに、大学1年の時、バイクで登校中事故に遭われ亡くなりました。事故当日、病院から連絡があり、駆けつけ、始めは状況がわからず、どうして手当や手術を病院はしてくれないのかと思ったそうです。医師に呼ばれ、大型トラックに跳ねられ、心臓の大動脈破裂で病院に運ばれてきたときには手の施しようがなかったということでした。怜志さんを連れて帰り、その晩一緒に寝て、涙が溢れ、「親が先に死ぬのが当たり前前、どうかこの心臓を息子に！」と布団を被り、声を押し殺して泣いた。勉強やサッカー、アルバイト、お小遣いもあげたことがなく、祖父母にも優しくかった。本当に一生懸命がんばっていたのに……。仕事もやる気もせず、金持ちで贅沢に遊んでいる奴に腹が立ったり、嫉んだりした。ある日、息子さんが現れ、「友達がたくさんできたから同窓会しないといけないから忙しい。」と言っていた。友達のためにがんばっているなどと思った。それから自分もだんだん元気になってきた。仏壇に手を合わせ、「息子は、父親の僕を幸せにするために生きてくれた。ありがとう」と手を合わせた。それから人を羨むことはなかった。「人は死ぬ。怜志に会ったとき恥ずかしくないようにがんばろう。」息子は励ましに来てくれた。「人はみな必要とされて生まれてきた。1人でもいなくてもいい命はないんです。友達や家族とうまくいかないこともある。きつとうまくやれる人がいっぱいいるはず。いっぱい待っているはず。事故でも病気でも死なないで生き抜いてほしい。」その後、高濱さんは癌を患い手術されました。入院して思ったことは、癌が一番怖いと思っていたが、一番怖いのは独りぼっちになることだった。児童(小1)が作ってくれた下手くそな千羽鶴にメッセージが書かれ子どもたちに助けられた。人の心は人の心でしか癒やされない。仕事を辞め、歩いた。山を歩いた。100kmのウォーキング大会にも出場した。62kmで足が動かなくなった。「怜志、助けてくれ！」あと1km歩いたら辞める。あと1km歩いたら辞める。……。痛くなくなった。何とかゴールした。「苦しかったら諦めていい。しかし、夢は捨てたらいけない！」息子に負けたくないともた次の年も挑戦した。



息子が帰ってきてくれたらハンバーグを食べたい。息子との最後の夜ハンバーグを作った。でかいハンバーグだけで文句を言われた。そこで、大根おろしをかけ和風ハンバーグにしてあげた。そしたら「親父いつもご飯作ってくれてありがとう」と言ってくれ、生きていた中で一番うれしかった。生きて帰ってくれたら父親として「ありがとう。生まれてきてくれて」と言いたい。毎日が平凡でもそれが幸せなんです。素直に「ありがとう」言える人が幸せになれる人になってほしい。

最愛の息子さんを交通事故で奪われ、思い出すことさえ辛いのに。現在、加害者・被害者のない社会づくりのために講演活動もされているそうです。心に染み入る話ありがとうございました。